

DOSHISHA REPORT



早天祈禱会 11月29日(土) 7時

若王子山頂

創立133周年記念式

11月29日(土) 9時

大学神学館礼拝堂

大学

●財団法人横浜企業経営支援財団と産学連携協定を締結

7月31日
横浜市内企業の経営を支援する公的支援機関である同財団と協定を締結。理工ならびに人文系シーズを横浜市内企業の経営に役立てるとともに首都圏での産学連携ネットワークの拡大・強化ができる。

●学術交流協定を締結

9月8日
フランスのストラスブール第二大学(マルク・ブロック大学)と学術交流協定を締結。記念国際シンポジウム「伝統の発見ーフランスと日本」を開催し、マルク・ブロック大学ミッシェル・デネケン副学長、マルティンヌ・シャツシエ国際関係副学長、八田英二学長が講演。

人文科学系の同大学は、自然科学系のストラスブール第一大学(ルイ・パスツール大学)、社会科学系のストラスブール第三大学(ロベール・シューマン大学)と2009年1月合併。ストラスブール大学は3大学分裂以前の姿に戻りフランス最大の大学に。(巻頭グラビア参照)

●文部科学省の「産学官連携戦略展開事業」に採択

大学等の中長期的な連携戦略の展開を国が支援するもので、支援事業のうち「知的財産活動基盤の強化」に採択。

これまで産学官連携活動が理系の技術開発を中心に進み、本学も成果を得てきた。今回の採択により、人文社会系の産学官連携ニーズの発掘や知的財産管理への取組など人文社会系の連携体制の整備と基盤強化を図れる。

●社会・芸術国際研究センター誕生

近代以降の国際的な規模での社会的創造に関する学際的研究を促進し、直接的参加者としてアーティスト、大学研究者、市民、学生の交流を活性化することが目的。研究理念は「すべての人が芸術家になる」。7月11日、一種の「フリースク

法人部

●2008年秋の叙位・叙勲

大学名誉教授松山信直氏が瑞宝中綬章を受章。11月13日グランドプリンスホテル赤坂において、伝達式が行われた。

●創立記念行事

リユニオン 11月9日(日) 10時
今出川キャンパス
創立記念礼拝 11月23日(日) 10時30分
大学クラーク記念館
クラーク・チャペル

ール」形式で公開講演会「百時間フ

ー・トーク・シリーズpart1」を開催。パリ国立エコール・ド・ボザール川俣正教授を迎え、「すべての人が芸術家になるとはどういうことなのか」センターが「どこへ行くか」としているのか」を語った。

●関西4大学学長フォーラム

10月11日
名古屋、テレビアホールで同志社大学、関西大学、関西学院大学、立命館大学の4大学が読売新聞社の協力のもと、フォーラム「私立大学の教育力ー卒業生の質をいかにして保証するか」を開催。

●第20回京田辺ランゲージ・セミナー

10月22日、言語文化教育研究センターは「ICTを用いた自学自習による外国語教育全体の高付加価値化」と題した講演会を開催。

●チャペル・コンサート

10月24日
キリスト教文化センターはユバアンサンブルによるコンサートを開催。ユバアンサンブルは2005年度から木のオカリナ、アイリッシュハーブ、ウッドフルート、ギターなど自然素材の楽器を使う演奏会を日本、韓国、台湾の

教会、福祉施設で開催している。

●第35回外国文化週間

11月2日、4〜8日
言語文化教育研究センターは「どつぶりラテンアメリカ音・味・人」を京田辺校地ローム記念館、ハローホール、知真館1号館で開催。音楽、料理、踊り、映画、講演を多彩に展開。

●DOSHISHA SPIRIT WEEK 2008 秋

11月3〜8日
キリスト教文化センターは両校地でカレッジソングの指導、講演会、展示を中心に、Doshisha Spiritを学び、知る「同志社スピリット・ウィーク」を開催。

●総合政策科学研究科公開講演会

11月20日
タイ政府商務省・通商交渉局ASEAN部部長スバット・サグワンディークル氏を招き「ASEAN新時代経済統合に日本が果たす役割」をテーマに開催。

●第2回同志社大学東京フォーラム

12月13日
経団連会館(東京都)において大学と同志社東京校友会がフォーラム「同志社

の更なる発展に向けて」を開催。新島生

誕の地で卒業生と父母が社会連携について認識を深めた。パネルディスカッションでは、「校友との連携と首都圏での展開」について、経営戦略懇談会委員3人と副学長3人が語り合った。

●社会福祉国際講演会

12月13日
「社会福祉教育の国際的最新動向ーアメリカとスウェーデン」と題し、アメリカコロラド大学のダニエル・リー教授、スウェーデンのP・グンナリー・エデバルク教授が日本の社会福祉教育に大きな影響を及ぼしたアメリカとスウェーデンの最新動向を紹介。主催は社会福祉教育・研究支援センター。

女子大学

●純正館竣工式

9月26日
今出川キャンパスに教室棟(地上5階、地下1階)、多目的棟「デントンホール」(地上1階、地下2階)の2棟からなる純正館が完成、竣工式をとり行った。もともと体育施設として使用していた旧

純正館を2007年に解体し、2009年の表象文化学部開設に伴うキャンパス整備事業の一環として建設した。教室棟には各種講義施設のほか、素晴らしい景観の屋上庭園を設置。デントンホールは体育施設（アリーナ）、学会、イベント、講演会等に対応し、壁面に収納された可動式客席を含めると604席の客席が確保できる。

●朝日・大学パートナーズシンポジウム

12月6日

朝日新聞大阪本社との共催により「アニメ文化とともに育つ子どもたちー日本のアニメはどこへゆくのかー」をテーマに大阪ビジネスパーク・円形ホールにて開催。三鷹の森ジブリ美術館館長の中島清文氏、映画クレヨンしんちゃんシリーズ等を手がけたアニメ監督の原恵一氏、本学村瀬学人間生活学科教授らによる講演、対談、パネルディスカッションを実施した。

●同志社女子大学今出川講座

英語英文学科、日本語日本文学科の今出川キャンパス移転を記念し、2008年度より実施。栄光館ファウラーチャペ

ルにて5月17日に「英国の庭、日本の庭の向こう側」と題し、ガーデンデザイナーの白井温紀氏と本学J.W.Carpenter英語英文学科教授が、6月14日には「源氏物語」と京ことば」をテーマに本学吉海直人日本語日本文学科教授と京都府立大学名誉教授の中井和子氏がそれぞれ講演・対談を行った。11月1日には、純正館デントンホールにて「没後10年 黒澤明のこしたものを」をテーマに元・黒澤プロ・プロダクションマネジャーの野上照代氏が講演および本学影山貴彦情報メディア学科准教授との対談を行なった。

●第58回シェイクスピア・プロダクション公演

11月14・15日

1951年から続く公演。英語英文学科3、4年次の2年間にわたりシェイクスピアの作品を研究し、4年次の秋に授業の一環として公演している。2009年度から同学科が今出川キャンパスに移転するため、今回が京田辺キャンパス・新島記念講堂での最後の舞台。演目は『As You Like It』にお気に召すまま。会場は両日とも盛況であった。京田辺最後の公演を記念して『Friends of Shakespeare』と

称した現役学生、卒業生、教員による交流の場も設けた。

●本学ゆかりの物語が映画「ホートン」に

映画「ホートン ふしぎな世界のダレダーレ」が昨夏、全国で公開された。原作「ぞうのホートンひとだすけ」の作者である世界的絵本作家のドクター・スー氏は元本学教授の中村貢氏と親交が深く、彼との交流のなかでこの物語のヒントを得たという。全国公開に先立ち物語発祥の地ともいえる京都で試写会が行われ、大歓迎を受けた。

高等学校

●ウェスリー交換留学受入

9月13～27日

夏休みに生徒9人が引率教員とともにオーストラリアのウェスリーカレッジに短期留学した際、ホームステイをした現地家庭の生徒9人が引率教員2人とともに2学期の授業や文化祭が行われている本校にやってきた。再会を喜んだ彼らは授業や文化祭の準備、体育祭、京都観光

などで楽しく過ごした。

●ようこそ先輩

10月3日

本校卒業生で社会の諸分野で活躍する先輩を講師に招き、2年生の進路選択の一助にするための試みである。大先輩から20歳代、職業も公認会計士、報道関係者、税理士・不動産鑑定士、建築家、エンジニア、脚本家・演出家・俳優、スポーツトレーナー、弁護士と幅広い講師陣から生きた話を聞くことができ、充実した取り組みとなった。

●人権学習

10月21日

3年生は「働くこと・生きること」、「ヒロシマの心」、「視覚障害者の現状と課題」というテーマでそれぞれ担当の講師の話の聞き、2年生は原爆症を扱った映画「夕風の街 桜の国」を鑑賞。1年生はアジアからの留学生を招いて交流を深めた。

●校舎移転

11月初旬

同志社中学校との統合（2010年予定）を控え、岩倉キャンパスの南部分に新校舎（恵潤館、桑志館）が完成。すべての学校機能を移転した。11月4日に総長、理事長を迎えて竣工式を挙行。11月

10日朝に全校で記念礼拝を持った後、新校舎での授業を開始した。「センチュリービルディング」を標榜する新校舎は煉瓦積の外観で今後100年の同志社教育を支えるにふさわしい建物。生徒、教職員共々清新な気持ちで2学期後半を開始した。（巻頭グラビア参照）

●クリスマス礼拝

12月10日

本年はチャペル未完成のため校内放送による礼拝をもち、ジェフ・バークランド京都外国語大学教授（元本校教諭）を説教者に招いてキリストの降誕を祝い、献金を行った。献金は止揚学園はじめ諸施設等に届けた。

●止揚学園訪問

12月15日

クリスマス献金の一部を持って訪問し、学園内見学、餅つき、昼食の後、クリスマスの飾り付け、学園でつくっている製作品の包装作業等を通して交流を深め、心の平安のうちにひと時を過ごすことができた。

●岩倉キャンパスクリスマス

12月18日

同志社小学校アリーナにおいて、ホザナコーラス部、管弦楽部、選択音楽受講生および同志社小学校児童有志の奉仕で

音楽中心のクリスマス礼拝を行い、地元の皆さんも多くご参加いただいた。

香里中高

●フィリップス・アカデミー校来日

7月13～31日

ボストンにあるフィリップス・アカデミー校から6人の生徒が本校を訪れた。同志社びわこリトリートセンターで7日間本校生徒と一緒に宿泊し、交流を深めることができた。

●中1・技術家庭科見学会

7月14日

午前中は、大阪科学技術館を見学。昼食はリーガロイヤルホテルにてマナー講習会を開いた。

●夏期カナダ語学研修

7月24日～8月14日

中学2年生から高校3年生の23人がカナダのバンクーバーで22日間の語学研修に参加した。午前中はESLの授業を受け、午後は課外活動に参加。週末はホストファミリーとともにキャンプやピクニックを行ない、充実した22日間を過ごす

ことができた。

●中2修学旅行

9月22～25日

新島先生緑の地、北海道函館を中心に行った。函館では「新島襄脱国の地碑」を訪れた。コースごとに別れ、大沼でのルーアフィッシング、ワールド温泉牧場、函館湾でのクルーズ、朝市での売り子体験、小沼ではカヌー体験、ステンドグラスづくりなど北海道ならではの体験学習ができた。今年は修学旅行に向けてアイヌ民族の人権をテーマに学習を積み重ね、白老民族博物館を見学し、アイヌ民族の歴史について学ぶ機会を持った。

●体育祭

高等学校

9月30日

中学校

10月1日

中学、高校ともに好天に恵まれ、玉入れ、騎馬戦、クラス対抗リレーなどグラウンドで1日汗を流した。今年から応援合戦も新たに加わり盛り上がりを見せた。

●文化祭

10月31日・11月4日

共学になってから特に高校生はステージを使って発表をするクラスが多くなり、準備にも熱が入っていた。中学生は展示が中心で、クラスごとに工夫をこら

した展示が見られた。また文化系クラブの展示などにも力作が見られた。中庭では各クラブや有志による模擬店も行われ、PTAによるバザーも盛況であった。

●中2アイヌ民族学習交流会

11月19日

アイヌ民族学習交流会を行った。第一部ではアイヌ民族の文化についての講演を聴き、第二部ではムツクリの演奏とアイヌ古式舞踊の体験学習を行った。

●クリスマスイルミネーション点灯式

11月11日

昨年に引き続いて今年もクリスマスイルミネーションの点灯式を行った。点灯式には生徒・教職員が多数集まり、聖歌隊がクリスマス・キャロルを歌うなかでツリーが点灯された。

●中3リベルタス

11月17日

中学3年生の総合学習「リベルタス」の社会人講師による授業は今年で5年目をむかえた。今年は13人の講師を招き、生徒たちは自分の興味にもとづいて弁護士やゲームクリエイター、キャビンアテンダント、新聞記者などの授業を選択して受講した。

●中学人権アッセンブリー

12月9日

人権アッセンブリーとして、中学1・

2年生を対象に、被爆ピアノコンサート・講演会を実施した。ピアノ調律師の矢川光則氏の講演に続き広島出身のピアノリストとソプラノ歌手による平和詩の朗読、コンサートが行われた。本校からも4組5人の中学生が実際に被爆ピアノを演奏した。多くの生徒が間近で被爆ピアノを見たり、触れたりして戦争と人権、平和について考える一日となった。

●クリスマスセレブレーション2008

12月10日

地域の皆さんを招き、一緒にクリスマスのお祝いをする事ができた。地域からは子どもも含めて約420人の参加であった。軽音楽部、聖歌隊、吹奏楽部、マンドリン部、ダンス部、ボランテア部がそれぞれ上演し、子どもたちと大いに盛り上がった。今年から「献米チャリティ」としてお米を募集したところ、およそ50キロのお米が献米され、寄付することができた。

●高校生人権アッセンブリー

12月12日

中学3年生と高校生を対象として人権アッセンブリーを開催した。松本サリン

事件で冤罪・報道被害の渦中に立たれた河野義行氏を講師にお招きした。松本サリン事件を扱った映画『日本の黒い夏』を全員で鑑賞した後、「冤罪・報道と人権」というタイトルの講演を聞いた。事件に関するお話のほか、事件の渦中にある河野氏を支えた家族、友人、勤務先、弁護士との心の交流に感動した様子の生徒も目立った。

女子中高

●「数検」グランプリ金賞

7月8日

2007年の金賞（団体賞）受賞に次いで、数検財団が実施した2008年度検定（文部科学省後援）の結果、金賞を受賞した。

●国際交流

前号既報の通り、高校2、3年生（30人）はイギリス・ケンブリッジのベルスクールで7月27日から8月10日まで、中学2、3年生（25人）はオーストラリア・アデレードのアネスリーカレッジで7月30日から8月9日までそれぞれ語学研修

とホームステイを体験した。オーストラリア研修は2008年度が第1回目であったが、国際交流委員会がいくつかの候補地と受け入れ学校をおよそ2年がかりで検討し、実施にいたった。参加者には大変好評であった。

法人内4中学校共同で3月に実施するスエバ校への派遣を含め、派遣は年3回であるが、それぞれに応募者が募集を大きく上回り、オーストラリアの場合64人の応募があった。各研修とも英語を中心に全教科の成績と学校生活の態度などをもとに、数次の審査を経て参加者を決定している。さらに参加者には事前・事後の学習、能力テストの受験や「体験レポート」の提出を義務付けている。

●中2、3高校修養会

9月13・14日

於・同志社びわこリトリートセンター
中学（参加63人）は梅花中高校の高橋詠子先生を講師に招き「あなたにとって幸せとは？」をテーマに、高校（参加74人）は同志社キリスト教学講師の原田博行先生を講師に「つながる時間」大切なことを打ち明けられる関係」をテーマに実施した。夜のキャンプファイアーを

囲んでの礼拝やバーベキューなど、中高とも宗教部の生徒が中心となって運営し、楽しい1泊2日を過ごした。

●避難訓練

10月29日

2006年および2007年に続き上京消防署に監察をお願いし、地震を想定して実施した。従来は授業中に火災あるいは地震「発生」を想定した訓練であるが、今回は改めて時間を予告せず、「昼休み中」に非常ベルを発報して生徒の避難動向をみた。毎年の訓練の賜物か、避難集合点呼も短時間でスムーズに首尾よく行なわれた。

●収穫感謝の日礼拝・施設訪問

11月14日

森孝一大学神学部教授による「収穫感謝の日」アーミッシュに学ぶ」を奨励題に礼拝をもった。昼からは生徒・教職員に献金や持ち寄った野菜・果物などを手に、有志生徒が老人ホーム、養護施設、知的障がい者施設の8カ所を訪問した。

●学園祭

10月1日 体育祭

10月2・3日 文化祭

10月4日 バザー、入試説明会

体育祭と文化祭（バザーの日も含め）は、生徒会と企画委員会の高校3年生が中心となって企画・運営した。文化祭の今年のテーマは「Girls' Be Ambitious」。合唱コンクールはじめクラス、クラブ、有志団体が、各教室や栄光館、静和館ホールおよびダンス室やグラウンドの特設ステージで、演奏に、演劇に、展示に、そしてバンドのライブやダンス、模擬店に練習成果を発表し、楽しく青春を謳歌した。

●国立ハンセン病療養所・多磨全生園訪問

高3の有志14人が療養所を訪問し、11月3日に行なわれた全生園祭でIDEA（ハンセン病患者・快復者やすべての人々の尊厳の確立を目指す国際組織）ジャパンが主催するバザーで奉仕活動に参加した。全生園訪問は聖書科が中心となつて企画、今年が8年目。多い年には40～50人が参加し、本校の「行事」として定着してきている。患者や快復者との交流や園内の資料館の見学を通して、参加者全員がより深く学び、他では得ることのできない貴重な体験をした。ある生徒



多磨全生園にて

は報告礼拝の奨励で、「自分の人生観が変化するほどの有意義な体験でした」と感想を語った。

●東アジア青少年大交流計画

AFS日本協会が実施した「21世紀東アジア青少年大交流計画」（高校生・教師660人が来日。日本各地を視察・見学し、ホームステイと学校通学を体験）の呼びかけに応じて、オーストラリア、

12月10～12日

国際中高

●7月入学生入学式

7月8日
編入学試験に合格した生徒の入学式を実施した。前日には学寮で生活する生徒のための入寮宣誓式を行った。

●青島第二中学校交換プログラム

7月12～19日
中国青島市にある青島第二中学校の生徒12人を受け入れた。本プログラムは2008年度からスタートしたものである。期間中生徒たちは学寮で生活をし、授業参加や奈良・京都のツアーに出かけるなど、日本での生活を満喫できたようであった。本校の留学プログラムは、北米地区・欧州地区にアジア地区が加わり、幅広い選択が可能になったと言える。2009年3月には本校の生徒が青島に訪問する予定である。

●学園祭

9月23～28日
最大のイベントである学園祭を実施した。期間中学校は22日、高校は24日に体育祭を催し、文化祭を28日に行った。学園祭は生徒が中心となって企画・運営



文化祭

し、今年も体育実行委員会が体育祭種目の決定から、当日の進行までを担った。文化祭は生徒会執行部・文化実行委員が中心となり「エコかつこい」をテーマに全校挙げての行事となった。

●校内英語試験

10月17日
全校生徒が「英語検定」試験か「TOEFL」を選び受験する、「校内英語試験」を実施した。

インドネシア、フィリピン、ニュージーランドの高校生4人を受け入れた。中3の授業への参加をはじめ朝のクリスマス・ページエントの讃美歌の練習や高3書道の授業などにも参加した。本校生徒とも積極的にコミュニケーションをはかり、短期間であったが楽しく充実した交流体験をもつことができた。

●クリスマス・ページエント

12月17日
午前は本校生が、夜は卒業生、生徒の家族、一般市民の皆さんが多数参加し、主の降誕を祝った。毎年催す行事であるが、生徒の投票によってマリアやヨセフ、また天使や聖書朗読などの役割が選ばれ、舞台監督、照明係や衣装パートなどには有志の企画委員が担当し、聖歌隊やハンドベルなどの部員を加えると、関係者の総数が400人近くとなる最大のイベントといつてよい。本格的な練習は期末テスト後の8日から。このページエントをわずか1週間で400人が役割を分担して完成させることに、大切に守られてきた伝統行事の重さと、今も受け継がれている生徒たちのページエントという行事への愛着をおぼえる。

●EABJM交換プログラム

10月25日～11月8日
パリにあるエコル・アクティヴ・ピラング・ジャンヌ・マニエル校より12人の留学生を受け入れた。滞在期間中生徒たちは、高校1年生と中学3年生のホームルームに入り、授業をはじめさまざまな行事に参加した。また京都・奈良のツアーにも出かけ、秋の日本を満喫していた様子であった。

●人権強調週間

10月27～31日
中高ともに人権について深く学ぶ週間を持った。今年度のテーマは「日常の中の『見えない』性差別」。毎日の礼拝の時間を使って教員が話をし、29日には午後の時間を使って、高校は生徒のパネルディスカッション、中学は映画を鑑賞した。

●秋季宗教週間

11月4～7日
学内行事である秋季宗教週間を実施し、多くの外来講師を迎え毎日の礼拝を守った。7日は特別時間割を組み、中学は松山城南高校の相澤先生から、高校は日本基督教団京都丸太町伝道師の渡辺先生からそれぞれお話を聞いた。

中学校

●夏季キャンプ

1年生（全員参加）は、7月26日～8月3日にかけて4期（各期2泊3日）京都府宮津市の本校由良キャンプサイトでの海のキャンプを行い、クラス仲間と親睦を深めた。2年生（自由参加）は7月22日～8月3日にかけて4期（各期3泊4日）北アルプス唐松岳登山と樺池自然園を訪ねる山のキャンプを行った。雄大な自然を満喫することができた。

●体育祭

9月25日
各学年クラスの縦割り8分団対抗によるトラック種目や綱引き、棒倒し、騎馬戦、ムカデリレー等、数多くの種目で白熱した競技を展開した。最終種目の分団対抗リレーではグラウンド全体が一つになり、一生懸命走ってバトンをつなぐ生徒と声をからして応援する生徒が一体となって盛り上がりを見せた。

●学園祭

10月1～3日
一年を通じた最大行事の学園祭を、京都公会館で2年生行事、演劇フェスティバ

とした研修旅行（3泊4日）を行い、それぞれに思い出に残る楽しい日々を過ごした。

小学校

●1年生学校合宿

7月23・24日
夏休みに1年生が学校に泊まる学校合宿を行った。日中の明るい学校と全く違う雰囲気「夜の学校探検」は大いに盛り上がった。夜は自分達で就寝の準備をし、自作ライトをつけて眠った。
一人ひとりが自立して自分の身の回りのこと、班や係りの活動を協力して行った。来年の体験学習につなげていくことだろう。

●スポーツフェスティバル

10月4日
スポーツフェスティバルのシンボルである大壁画用のやつこさんを全校生が折り紙で作成した。貼り合わせて完成した大壁画は、当日校舎正面に飾った。SPSS (SPORTS FESTIVAL SUPPORT STAFF) と呼ぶ児童や体育委員会がさまざまな役割の中心となり、全員が協力し

ル（3年生）を2日間にわたり開催した。ステージに立つものから熱いメッセージが観客に伝わり、魅力ある舞台発表となった。最終日には中学校を会場に1年生の各種発表や文化系クラブを中心とした展示発表、生徒会主催のさまざまな行事が開催された。フィナーレには各分団が踊りとパフォーマンスを競う「輝舞祭」とフォークダンス等を行った。交流のある青森県風間浦中学校から2年生が来校し、3年生の演劇フェスティバルを鑑賞。「輝舞祭」では「ソーラン節」のダンスを披露し、今年も豊かな交わりの機会を与えられた。

●秋季宗教人権週間

11月4～7日
5日「愛によって互いに仕えなさい」
浜本京子先生（日本バプテスト病院チャプレン）

6日「主がとらえていてくださる」

指宿力先生（啓明学院中学高等学校校聖書科教員）

7日「喜ぶのはあたりまえではないか」

小西二巳夫先生（敬和学園高等学校校長）

●人権行事

11月14日



折り紙で作成した
2008年度スポーツフェスティバル大壁画

●読書週間

10月20～24日
休み時間に校内のさまざまな場所で、教員による本の読み聞かせコーナーが設けられ、児童は自分の好きなコーナーを選んで読み聞かせを楽しんだ。講師を招いた特別授業もあり、読書に親しむ一週間となった。

1年生は映画鑑賞、ブラインドリーディング、点字体験。2年生は映画鑑賞と午後はさまざまなコースに別れての体験学習。3年生は終日分科会形式で学内、学外のさまざまなコースに分かれ体験学習を行った。全校生徒がさまざまな観点から人権について学び、理解を深めることのできた一日であった。

●収穫感謝礼拝・施設訪問

11月18日
ハンドベル・ピースリンク部員、生徒会執行委員、生徒が西陣児童館を訪問し、朝の収穫感謝礼拝で持ち寄った果物を届け、ハンドベル演奏やゲームを通して交流のひとつを持った。

●クリスマス燭火礼拝

12月19日
2学期終業式に合わせてクリスマス燭火礼拝を全校で守った。夕刻のクリスマス燭火礼拝には保護者や一般の皆さんも大勢参加され、クリスマスを迎える喜びを分かち合った。

●スキーキャンプ

12月23～27日
12月24～27日

●沖縄研修旅行

3年生（自由参加）は、長野県志賀高原一の瀬スキー場でのスキーキャンプ（4泊5日）と沖縄での平和学習を中心

●ワイルドローバー活動

10月25日
高学年の児童からなる児童会の各委員会が、自分たちの委員会活動を劇やスライドなどで全校生に紹介した。その後異年齢の縦割り集団で、各委員会が設営したブースを廻るスタンプリーを行った。

●同志社タイム

10月28日
自然写真家 松本紀生氏を招き「アラスカの旅 無人島編」をテーマに講演会を開催した。松本氏は1年の大半をアラスカの原野で過ごし、夏は鯨、冬は氷点下50度の中でキャンプをしてオーロラを撮影している。アラスカの森、氷河、アラスカ山脈、幻想的なオーロラ、躍動感あふれる鯨、熊、鳥たちの写真を見ながら講演を聴き、感動あふれる同志社タイムとなった。

●チャレンジウィーク

11月10～15日
この1週間は、それぞれの学年で何か一つのことに集中してチャレンジするための期間としている。今年は、1年生がけん玉、2年生が30人31脚、3年生が群読、4年生が民舞、5年生が演劇、英語科で1、2、3年生が英語劇、4、5年



30人31脚の記録更新に挑戦する2年生

生が国際理解にチャレンジした。取り組みの成果は、チャレンジウィーク交流会として、各学年の児童や保護者が、お互いに見学した。

チャレンジすることの大切さや友達と協力することの意義を感じ取る1週間となった。

●**収穫感謝礼拝・点灯式** 11月21日
午前中は、収穫感謝礼拝を全校で開催



オペレッタを演じる年長児

●遠足

学年ごとに地下鉄や叡山電車に分乗し、公共の乗物に乗る体験をしながら、宝ヶ池に向かう。平安騎馬隊の馬に触れ、北園の芝生広場を駆け回るなど思い思いに秋の自然を満喫した。

●ざくろ狩り

10月8日
園庭にある一本のざくろの木に、今年も朱色の実が沢山実った。今年は夏にスズメバチがこの木に巣を作り、薬品を使用し撤去した為、残念ながら味わう事が

し、家庭から持ち寄ったり、自分たちが収穫した作物などを捧げた。

午後から、保護者後援会である明心会の協力のもと、点灯式までの間、校内で多くのイベントが催された。

また、日没後、保護者も参加して、チャペルコートでクリスマスツリーの点灯式が厳粛な雰囲気のもと行われた。

幼稚園

●お泊まり保育

7月4・5日
年長組が、家庭を離れ園内で一泊の宿泊保育を行った。スイカ割り、地域商店街の七夕祭りに参加等、ひと晩を友達や教員と共に楽しんだ。一夜明けた子ども達の表情は、自信に溢れ、沢山の体験話を家庭に持ち帰った。

●七夕発表会

7月10日
音楽表現を中心とした、日頃の保育活動を保護者に発表。女子中高の静和館ホールを借用し、合唱やリズム表現など年齢ごとの成長を感じる発表を行った。

●夏期保育

8月27・29日

出来なかった。子どもなりにこの事態を受け止め、来年を楽しみにと約束した。

●運動会

10月18日
女子中高グラウンドを借用して、秋晴れの空の下で、かけっこや玉入れ、親子競技を楽しんだ。9月から練習を積んできたダンスは、年齢ごとの成長が顕著に見られ、観客からそれぞれのクラスに沢山の拍手が送られた。

●チャペルアワー

11月5日
同志社礼拝堂での「チャペルアワー」で園長が奨励を行う。その一環として、年長組が聖歌隊として参加。天井の高い礼拝堂では子どもたちの声がよく響き、礼拝の中で一役を担う事ができた。

●野点茶会

11月10日
日頃お世話になっている方々に、子ども達が感謝の気持ちでお菓子やお茶をお運びした。お茶をこぼしたり、挨拶を忘れてしまうハプニングもあったが、優しく見守ってくださったお客様に支えられ、無事終える事ができた。自信を得る経験の一つとなった。

●芋ほり

11月12日
北山にある畑に、年中・年長組が芋ほ



拭き掃除し、布団を敷きます

夏休み中の3日間、園児が登園し、水遊びや製作等の異年齢保育(縦割り保育)を楽しんだ。

●開園記念バザー

9月20日
保護者の企画により、在園児・卒園生とその家族が参加。園内で模擬店やTシャツ、キーホルダーの作成など工夫を凝らしたお店に子ども達は大喜びで参加した。

りに行った。大きなさつま芋が沢山収穫でき、帰り道はリュックが重くなった。子どもにとっては長い道のりを駆まで頑張って歩く姿が見られた。

●収穫感謝祭

11月21日
家庭から持ち寄った果物や野菜を囲み、全園児で、自然の恵みに感謝する収穫感謝の礼拝をもった。



チャペルアワーに参加